

私鉄総連 Oさん

私は今年還暦を迎えました。戦後の高度経済成長期といった時代に生まれ、平和な暮らしが当然という環境で育ってきました。また、当時の戦争についての知識は、家族を含む身近な人たちが戦争を体験し、その記憶が強く残っていたこともあり、戦地や戦時中の暮らしについて学ぶ機会も多く、戦争を題材とした映画の鑑賞や学校での平和学習と合わせ、一定の教育は受けてきた世代でもあると思っています。

しかし、この度の平和行動に参加したことで、私の想像をはるかに超える実相を学び、1945・8・9 11:02の長崎を改めて知ることができました。広島と同じく、人類には制御できない核兵器により、何も抵抗をしない人たちが一瞬で命を奪われた原子爆弾は、当時の国際ルール・常識を無視した非人道的犯罪行為であり、戦いの引き金となった日本政府の責任は勿論のこと、最後には、戦争を平和的に終わらせることができなかつた人類の犠牲に、多くの広島・長崎の方々になってしまったのだと強く感じました。

戦争を始めるのも人ならば、それを止めさせるのも人です。今も世界のどこかで争いが続いているように、人類は同じ過ちを繰り返しています。犠牲となった多くの方々やその家族の悲しみを決して無駄にすることなく、私たちは人として恒久平和を願い諦めず運動を着実に進めていかなければなりません。

この度の平和行動により、世代を超えて、その思いを共有できたことに感謝申し上げ、戦争やテロといった暴力の礎に立つ国家などあってはならないことを胸に、これからも微力ながら平和への祈りと運動を続けてまいります。ありがとうございました。

私鉄総連 Sさん

今回初めて『平和行動in長崎』に参加させていただきました。

初日にグラバー園、大浦天主堂、軍艦島ミュージアムと長崎の歴史と文化に触れることができ、明治日本の産業革命遺産、造船、石炭産業を学ぶことができました。

そのような文化のある中で原爆投下の現実と被爆体験証言を結びつけると、今では原爆投下後の状況があったことが学ぶ場がなければわからないものだと思います、このような平和行動を継続してより多くの人に経験してもらう大切さを知ることができました。

二日目には被爆79周年長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典のサテライト会場からの参加と、実際の会場へはピースウォークで連合長崎青年委員会さんのピースガイドをしていただきながらの見学でしたが、平和祈念式典では銅像や展示物など海外から送られているものもあり、原爆投下が日本であったとしても、その悲惨さなどは海外にも伝わっているものだと感じました。

今回学んできたことを自分の周りなどにも伝えていきたいと思えました。

貴重な体験ありがとうございました。



平和記念行動に参加して思ったことを素直に書かせていただきます。

初日の午前中は長崎市内にある隠れキリシタンが祈りに集まったという大浦天主堂を見学し当時の説明を聞きました。正面にあるステンドグラスがとても美しく感じました。

午後からは被爆79年連合2024平和ナガサキ集会に参加し、被爆者である築城 昭平氏より当時の生々しい写真と共に被爆の様子について聞きました。

被災地の状況は当時の写真でわかりましたが、昭平氏の「防空壕の中は負傷者がいっぱい地獄のようだった」という言葉に全く想像がつきませんでした。昭平氏は当時、左腕左足に火傷を負い右腕と頭からひどく出血したそうですが、現在もご健康そのものという感じでした。

若者からのメッセージということでナガサキユース代表の方・高校生平和大使の方より話を聞きました。

高校生平和大使のスピーチが特に印象に残り、「ビリョクけどムリョクじゃない」というスローガンが自分に刺さりました。また、高校生平和大使は長崎県だけでなく日本ほぼ全国に各県代表の高校生平和大使がいることを初めて知りました。

活動の一つとして、国連に届ける核兵器廃絶を求める署名 高校生一万人署名活動が現在2,000,000筆を超えていることにも驚きました。この署名活動を始めるきっかけが、2001年に長崎の大使として集まった14人にて発案し自分たちでやり始め、今では国連で唯一認められた署名活動となっている事にもすごいと思いました。国連欧州本部には、高校生1万人署名簿の展示棚があり、全て永久保存されることになっているそうです。

後から調べてわかった事ですが、この高校生大使達は原爆以外にも、世界各地で起こる自然災害で被害に遭った地域へ向けての募金活動を行い、日本赤十字を通して支援金を送っているそうです。今回の集会の後、会場入り口にて募金活動されていたため、小さいですが募金させていただきました。

2日目は長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典にサテライト会場より参加しました。会場からのライブ配信での参加でしたが、普段のテレビから見るものとは重く感じるものがありました。長崎県の学生は、8月9日は登校日となっており会場・学校などに集まり全員で黙禱を行うようで、会場には多くの学生・一般の方々がみえました。

午後からは慰霊碑巡り・万灯流しに参加しました。万灯流しはすごく雰囲気がありました。現地の方より万灯流し・精霊流し・灯籠流しとあり、意味など違うことを教わりました。

今回の平和行動に参加してみて、全国の高校生大使の存在・活動について知り、やれることはやりたいと感じました。とりあえず、自分の子供に何となくでも知ってもらいたいのでもた長崎に家族で訪れようと思いました。

夜の自由行動の時には地元の方と交流する機会もあり、参加させていただきありがとうございましたという気持ちです。

初めて「平和行動」に参加させていただきました。ITUCをはじめ、各県の地方連合会の方々も含めた、多くの仲間が長崎に集結した規模感に驚きました。

連合2024平和ナガサキ集会では、被爆者（築城昭平様）から当時の詳細な話が伺え、一瞬で日常が変わったこと、その原爆で「そこにただけの罪のない7万人を超える尊い命が奪われ、重軽傷者を含めその倍以上の方が被害にあわれた」との話を聞いて、改めて凄惨さを痛感しました。本当にゾッとする話に、改めて「平和」が日常にあるありがたみ、そして「今ある平和を失ってはいけない」ことを再認識しました。

長崎大学核兵器廃絶研究センター長の基調講演では、世界各国の核保有数（1万個超）からすれば、日本は24個あれば・・・という話があり、「それら核兵器が使われたら今の日常の生活は、日常ではなくなる」ことを伺いました。また、若者の言葉ということで「ナガサキ・ユース代表団」及び「高校生平和大使」からは、「長崎を最後の被爆地に（これ以上原爆の被害を出さないで）」・「ビリョクだけどもリョクじゃない」という強い平和に対する思いを受け取りました。

長崎の原爆については、歴史の教科書に書いてある情報程度しか知らなかったのですが、ピースウォークで実際の爆心地を含め回らせていただき、教科書やテレビからは伝わらない重みを体感し、忘れてはいけないとの強い思いに浸りました。また、原爆資料館の見学では、当時の遺品などから凄惨さが伝わってきました。

今回、本当に忘れることのできない経験をさせていただきました。

